

令和6年度 小桜こども園 園評価結果

1. 保育目標

- ・まごころに生きる子
- ・思いやりのある子
- ・あいさつをする子
- ・みんなと仲良くする子

2. 本年度の重点目標と取組の総括

令和6年度は、園の基本理念である「まことの保育」を軸に、子ども・保護者・職員それぞれが安心して関われる環境づくりを重点目標として取り組みました。以下の4つの観点から、園全体で具体的な実践を重ねました。

(1) 子どもが安心して生活できる保育環境づくり

- 子どもの発達や個性に応じた関わりを意識し、落ち着いて過ごせる保育室環境を整えた。
- 毎日の生活リズムを安定させ、安心して過ごせる一日の流れを共有・統一化した。
- 気持ちを受け止める言葉かけやスキンシップを重視し、信頼関係の形成に努めた。

(2) 職員間の共通理解と連携強化

- 職員会議やクラス会議を通して、保育内容の共有と課題の見直しを定期的を実施した。
- 新任職員や補助職員に対しては、指導担当を中心にサポート体制を整え、互いに相談しやすい雰囲気づくりを進めた。
- 行事や日常の保育において、役割分担とフォロー体制を明確にし、チームとして支え合う姿勢を高めた。

(3) 保護者との信頼関係づくり

- 送迎時の声かけや連絡帳・園だよりを通して、保護者との日常的なコミュニケーションを大切にした。
- 年間行事や日々の保育活動では、園の方針や子どもの成長の様子をわかりやすく伝える工夫を行った。
- 保護者アンケートから寄せられた意見をもとに、今後の保育内容の改善や家庭支援の在り方を検討した。

(4) 安全・衛生管理および行事運営の改善

- 園内外の安全点検を定期的を実施し、事故防止や緊急時対応の再確認を行った。
- 行事運営では、安全面を最優先としながらも、子どもが主体的に楽しめる内容へと改善した。
- 体調不良児対応・感染症対策においては、記録と連携を徹底し、職員全体で情報を共有した。

このように、園全体が一体となり、保育の質向上と働きやすい職場づくりの両立に取り組んだ一年でした。今後もこの取組を継続し、職員一人ひとりの専門性と協働意識を高めていくことが課題となります。

3. 職員自己評価の集計と傾向

職員の自己評価を基にした平均値は以下のとおりです。

・能力：4.2 ・情意：4.4 ・実績：4.1 （総合平均：4.2）

全体として「やや良い～良好」の評価が多く見られ、特に協調性・規律性・意見具申の項目においては高い傾向が見られました。職員一人ひとりが園の方針を理解し、共通の目標に向かって協力し合う姿勢が定着してきていることがうかがえます。また、保育環境の変化や行事運営などに対しても、柔軟に対応しようとする意欲や主体性が見られました。

一方で、「報告・連絡」「指導態度」の項目では他項目に比べて評価がやや低く、いくつかの課題が考えられます。その理由として、以下の要因が挙げられます。

- ① 日常業務の多忙化による情報伝達の遅れや省略
- ② 中堅層職員への指導・助言に対する意識の差
- ③ 役割分担の明確化と責任意識の共有不足

これらを踏まえ、今後は報告・連絡体制の仕組みづくりとともに、リーダー層の育成や職員間のコミュニケーション強化を重点的に進める必要があります。

4. 統括的な園評価結果について

令和6年度は、園全体として「子どもが安心して過ごせる環境づくり」と「職員間の連携強化」を中心に据え、計画的かつ協働的な取組を進めることができました。各クラスや担当において、日々の保育実践に責任と工夫が見られ、園の方針である「まことの保育」が職員一人ひとりに浸透し始めています。

特に、協調性・規律性・意見具申の項目で高い自己評価が得られたことは、園全体のチームワークの向上と前向きな職員姿勢の表れといえます。日常業務においても、声を掛け合い、助け合う雰囲気定着し、園内の風通しが良くなった一年でした。また、保護者との関係面でも、日常のやりとりを通して信頼関係が一層深まり、家庭と園が協力し

て子どもの成長を支える意識が高まったことは大きな成果です。

一方で、報告・連絡・指導態度の分野では、情報共有の方法やタイミングにばらつきが見られるなど、組織的な連携面での課題が明らかになりました。また、中堅層職員におけるリーダーシップの育成や、後輩職員への指導・助言の在り方など、人的育成の観点でも改善の余地があると考えられます。これらの要素は園運営の根幹であり、今後は意識改革とともに具体的な行動改善へとつなげていくことが重要です。

今年度の取組を通して、園全体の方向性が一つにまとまりつつあることは大きな成果であり、令和7年度に向けては、職員間のさらなる信頼関係と情報共有の円滑化を図りながら、「チームとして支え合う職場」「子どもとともに育つ職員」をテーマに、次の段階へと進化させていくことが求められます。園としては、引き続き「子ども第一」の視点に立ち、家庭・地域・職員が一体となって保育の質を高め、笑顔あふれる園運営を目指してまいります。

5. 次年度の目標

次年度は、今年度の成果と課題を踏まえ、さらに一歩進んだ園づくりを目指します。子ども一人ひとりの思いを受け止め、心に寄り添う丁寧な保育を大切にしていきます。そのために、職員一人ひとりが互いを信頼し合い、協力しながら保育の質をより高めていくことを目標とします。

また、園全体で共通理解を持ち、情報を共有し合える体制を整えることで、チームとしての力を最大限に発揮できるようにします。「報告・連絡・相談」の基本を大切にしながら、立場や経験を超えて支え合う関係を築いていきます。

さらに、働きやすく安心できる職場づくりを意識し、互いの努力や思いを認め合いながら、笑顔で支え合う保育環境を実現していくことを目指します。子どもたちが日々の生活の中で安心して成長できるよう、私たち職員自身も学び合い、成長し続ける園をつくってまいります。